

平成20年3月期 第3四半期財務・業績の概況

平成20年2月8日

上場会社名 STEILAR C.K.M株式会社 上場取引所 JQ
 コード番号 2673 URL <http://www.steilar.com/company/>
 代表者(役職名) 代表取締役 (氏名) 橋本勝司
 問合せ先責任者(役職名) 取締役 (氏名) 加藤和弘 TEL (03) 5326-8880

(百万円未満切捨て)

1. 平成20年3月期第3四半期の連結業績(平成19年4月1日 ~ 平成19年12月31日)

(1) 連結経営成績 (%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
20年3月期第3四半期	5,223	9.4	73	-	114	-	49	-
19年3月期第3四半期	5,768	0.3	29	-	52	-	94	-
19年3月期	7,379		178		212		338	

	1株当たり四半期 (当期)純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益
	円 銭	円 銭
20年3月期第3四半期	11 01	10 95
19年3月期第3四半期	20 63	- -
19年3月期	74 49	- -

(注) 19年3月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び19年3月期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、1株当たり純損失であるため、記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
20年3月期第3四半期	4,183	877	20.9	194 64
19年3月期第3四半期	5,716	1,120	19.5	246 42
19年3月期	5,002	850	16.9	188 48

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金		
	中間期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭
19年3月期	6 50	- -	6 50
20年3月期(実績)	- -	- -	6 50
20年3月期(予想)	- -	6 50	

3. 平成20年3月期の連結業績予想(平成19年4月1日～平成20年3月31日) 【参考】
(%表示は、通期は対前期、中間期は対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通 期	7,500	1.6	154	-	154	-	72	-	16 16

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う 有
特定子会社の異動)
(2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有
(3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 有

[(注)上記(1)～(3)の詳細は、5ページ【定性的情報・財務諸表等】 4.その他をご覧ください。]

(参考) 個別業績の概要

(1) 個別経営成績及び財政状態の概要(平成19年4月1日～平成19年12月31日) 【参考】

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
20年3月期第3四半期	4,945	1.1	100	-	142	-	157	-
19年3月期第3四半期	4,890	0.0	94	-	41	-	143	-
19年3月期	6,367		226		172		366	

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
20年3月期第3四半期	3,630	932	25.7	208 13
19年3月期第3四半期	4,719	1,044	22.1	230 96
19年3月期	4,071	796	19.6	177 78

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来に関する見通しに基づく予測が含まれております。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と大きく異なる結果となる可能性があります。

【定性的情報・財務諸表等】**1. 連結経営成績に関する定性的情報**

当四半期においては、当社グループは以下のように活動してまいりました。

通販小売事業**イ. カタログ部門**

カタログ部門では、5種類のダイレクトメールにより当社独自のオリジナル商品の販促強化を進めるとともに、カタログの品質向上を目的とした企画部門の組織変更を行い、売上高の拡大に努めました。また、販売促進のためのインセンティブサービス企画等を積極的に推進し、休眠顧客の掘り起こしによる売上利益の拡大に取り組みましたが、販売促進費の上昇により利益率の低下を招く結果となりました。

以上の結果、当四半期のカタログ部門の売上高は24億14百万円(前年同期比6.3%減)となりました。

ロ. 事業部門(頒布部門)

趣味コレクター商品を中心とした雑貨頒布は、海外からの直接仕入による商品展開をスタートし、また、オリジナル健康食品の品揃えの充実を進め、商品開発の強化による売上拡大を進めました。一方で新たな市場開拓に向け、外部への広告展開を図り新規顧客の獲得に努めました。しかしながら継続顧客拡大につなげることができず、売上高が減少する結果となりました。

新たな取り組みとして、商品購入後の顧客に対するフォローアップ強化のために、部署(リピート活性課、ロイヤルカスタマー部)を組織し、リピート顧客による継続的な購入と安定的な売上高獲得を目指しております。

以上の結果、当四半期の事業部門の売上高は7億14百万円(前年同期比20.3%減)となりました。

ハ. メディア部門

特定会員を保有している他社への広告出稿及び共同DMの発行を積極的に進め、売上の拡大を狙うと共に新規顧客の獲得を行うことにより業績の拡大に努めました。

新規媒体としては、特定会員を保有する媒体への卸し及び新聞媒体への広告出稿を拡大することにより、新規顧客の獲得及び売上利益の拡大に努めました。利益率の高い自社オリジナル商品につきましては、TV及びラジオ媒体での展開を図るべく、引き続き提案を進めております。

また、当社のソリューション提供ビジネスにつきましても上記活動とともに併せて推進し、今後につながる足がかりとしました。

一方、利益の拡大を狙い、また、販売促進費の対売上比率の改善を図るため発行物の部数及びサイズの効率的な設定を試みましたが、結果的には売上高の減少とともに利益金額も減少し、販売促進費の効率的な使い方に課題を残す形となりました。

また、媒体発行元の合併による媒体数の減少やヒット商品の不足などにより、売上高は前年同期を下回る結果となりました。

以上の結果、当四半期のメディア部門の売上高は6億96百万円(前年同期比23.5%減)となりました。

ニ. 通信メディア部門

自社サイトである夢隊WEBでは、ユーザビリティの向上と新たなデータベースの構築を考え、2007年11月にサイトをリニューアルいたしました。同時に、コンテンツの強化と幅広い層の顧客獲得を狙い、メンズ、レディース、アクティブシニア、ファミリーとターゲット毎のカテゴリーを設けました。また、リスティング広告やアフィリエイト広告とは別に、サイトの認知度向上及び新規顧客誘導のために他社の会員組織に対するメールマガジン配信やバナー広告を出すなど積極的に活動いたしました。

外部ショッピングモールサイトでは、Yahoo店舗のリニューアルを図り、掲載商品を増加いたしました。また、自社オリジナル商品の拡販と送料無料企画等の顧客サービスを積極的に行いました。

以上の結果、当四半期の通信メディア部門の売上高は3億13百万円(前年同期比15.7%減)となりました。

ホ. その他部門

コールセンター業務を行っている株式会社ホット・コミュニケーションは、電話及びネット受注時においてインターネット事業や健康・化粧品事業と連動し、顧客のリピート継続注文を増やすために、販売促進活動を積極的に行いました。また、受注時や問い合わせ対応時に顧客一人ひとりの要望に個別に応え、よりコミュニケーションを深めながら個別顧客対応が出来る「コンシェルジュ」サービスを行うことで、顧客の帰属性を高めることを強化いたしました。

以上の結果、当四半期のその他部門の売上高は35百万円(前年同期比22.2%減)となりました。

なお、前年同四半期において、通販小売事業のその他部門に含まれていたグリストラップ浄化装置等のレンタル事業につきましては、当四半期よりその他事業に含めております。その影響額は、売上高1億10百万円であります。

以上の結果、当四半期の通販小売事業の売上高は41億75百万円(前年同期比14.7%減)となりました。

不動産事業

当社は、平成19年9月1日をもって、不動産事業を担当していた株式会社クリスタルアースを吸収合併いたしました。当四半期においては本件合併により引き継いだ販売用不動産のうち、1物件を売却いたしております。

以上の結果、当四半期の不動産事業の売上高は7億81百万円(前年同期比2.3%増)となりました。

その他事業

株式会社S・Rプロモーションは、歌手・俳優などのタレントマネジメント業務において大手レコード会社との契約が成立し、ドラマ出演などメジャーへの進出の足がかりができました。更に、コンサートイベント事業も集客が増加し、興行収益の拡大につながりました。

ライフステージ株式会社においては、デイサービス(通所介護)を行っております。

グリストラップ浄化装置等の機械装置のレンタル事業においては、新規の設備の取得及びレンタルを行っております。

以上の結果、当四半期のその他事業の売上高は2億66百万円(前年同期比138.1%増)となりました。なお、前年同四半期において、通販小売事業のその他部門に含まれていたグリストラップ浄化装置等のレンタル事業につきましては、当四半期よりその他事業に含めております。その影響額は、売上高1億10百万円であります。また、前連結会計年度において、区分掲記していた店販小売事業につきましては、重要性が低下したことから、その他事業に含めております。この変更による売上高への影響は軽微であります。

以上の結果、当四半期(連結)の売上高は52億23百万円(前年同期比9.4%減)、経常利益は1億14百万円(前年同期は経常損失52百万円)、四半期純利益49百万円(前年同期は四半期純損失94百万円)となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期末の財政状態につきましては、総資産41億83百万円(前連結会計年度末比8億18百万円減少)、負債の部合計33億6百万円(前連結会計年度末比8億45百万円減少)となり、純資産の部合計は8億77百万円(前連結会計年度末比26百万円増加)となりました。

また、長期借入金が前連結会計年度末に比べ5億83百万円減少し10億27百万円となり、社債が前連結会計年度末に比べ2億25百万円減少し2億17百万円となるとともに、現金及び預金が前連結会計年度末に比べ4億39百万円減少し、7億75百万円となりました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき予想しました結果、平成19年11月15日に発表した業績予想値に変更はありません。

なお、実際の業績につきましては、今後様々な要因によって予想値と異なる可能性があります。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

株式会社クリスタルアースは、平成19年9月1日に当社を存続会社とする吸収合併により解散したため、当社の特定子会社に該当しなくなりました。

(2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用

たな卸資産のたな卸高は、帳簿たな卸によって算定しております。

(3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更

(固定資産の減価償却の方法)

法人税法の改正に伴い、平成19年4月1日以降に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。この変更による損益への影響は軽微であります。

(返品調整引当金)

商品の返品は、従来、返品時に売上高から控除する処理をしておりましたが、金額的重要性等を勘案し、より適正な期間損益計算のため、返品調整引当金を計上することにいたしました。この結果、従来と同一の基準によった場合に比して、売上高、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益は、それぞれ1,320千円減少しております。

5.(要約)四半期連結財務諸表

(1)(要約)四半期連結貸借対照表

(単位:百万円、%)

科 目	前年同四半期末	当四半期末	増 減		(参考)前期末
	平成19年3月期 第3四半期末	平成20年3月期 第3四半期末	金 額	増減率	(平成19年3月 期末)
	金 額	金 額	金 額	増減率	金 額
(資産の部)					
流動資産					
1.現金及び預金	1,581	775			1,215
2.売掛金	821	706			704
3.たな卸資産	857	701			925
4.その他	422	144			110
流動資産合計	3,682	2,327	1,355	36.8	2,955
固定資産					
1.有形固定資産	1,095	1,145			1,119
2.無形固定資産	117	94			95
3.投資その他の資産	821	617			832
固定資産合計	2,034	1,856	177	8.7	2,047
資産合計	5,716	4,183	1,532	26.8	5,002
(負債の部)					
流動負債					
1.支払手形及び買掛金	948	758			726
2.1年内償還社債	285	285			285
3.短期借入金	599	533			586
4.その他	466	456			458
流動負債合計	2,299	2,033	266	11.6	2,056
固定負債					
1.社債	502	217			442
2.長期借入金	1,750	1,027			1,610
3.その他	43	27			42
固定負債合計	2,296	1,273	1,023	44.6	2,095
負債合計	4,596	3,306	1,289	28.1	4,152
(純資産の部)					
株主資本					
1.資本金	368	368			368
2.資本剰余金	362	362			362
3.利益剰余金	587	391			342
4.自己株式	206	221			222
株主資本合計	1,112	901	210	19.0	851
評価・換算差額等					
1.その他有価証券評価差額金	2	28			7
2.繰延ヘッジ損益	0	0			0
評価・換算差額等合計	2	28	31	-	6
少数株主持分	5	4			6
純資産合計	1,120	877	242	21.7	850
負債純資産合計	5,716	4,183	1,532	26.8	5,002

(2) (要約)四半期連結損益計算書

(単位:百万円、%)

科 目	前年同四半期 平成19年3月期 第3四半期	当四半期 平成20年3月期 第3四半期	増 減		(参考)前期 (平成19年3月 期)
	金 額	金 額	金 額	増減率	金 額
売上高	5,768	5,223	544	9.4	7,379
売上原価	3,095	2,660	435	14.1	3,950
売上総利益	2,672	2,563	109	4.1	3,428
販売費及び一般管理費	2,701	2,489	211	7.8	3,607
営業利益又は営業損失()	29	73	102	-	178
営業外収益	36	89	52	141.9	45
営業外費用	60	48	12	20.2	78
経常利益又は経常損失()	52	114	166	-	212
特別利益	35	22	13	36.6	72
特別損失	76	86	9	12.7	133
税金等調整前四半期純利益 又は税金等調整前四半期 (当期)純損失()	93	50	144	-	273
法人税、住民税及び事業税	13	2	11	84.6	3
法人税等調整額	13	0	13	-	60
少数株主利益 又は少数株主損失()	0	1	1	-	0
四半期純利益又は 四半期(当期)純損失()	94	49	143	-	338